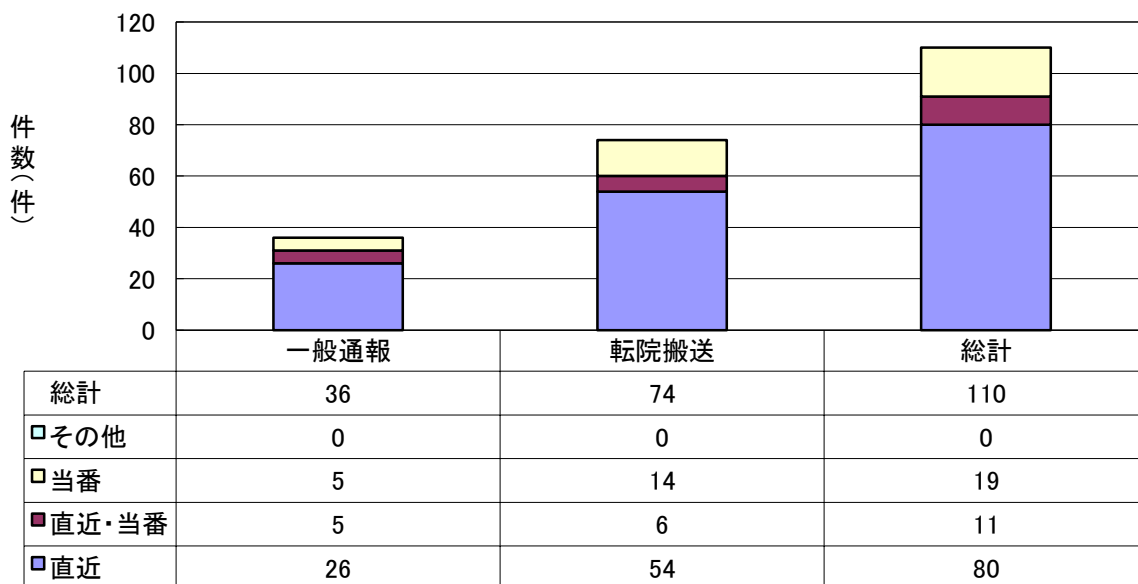


東京都母体救命搬送システムによる搬送事例の状況

平成25年4月1日から平成26年3月31日報告受理分 110件

1 搬送の種類

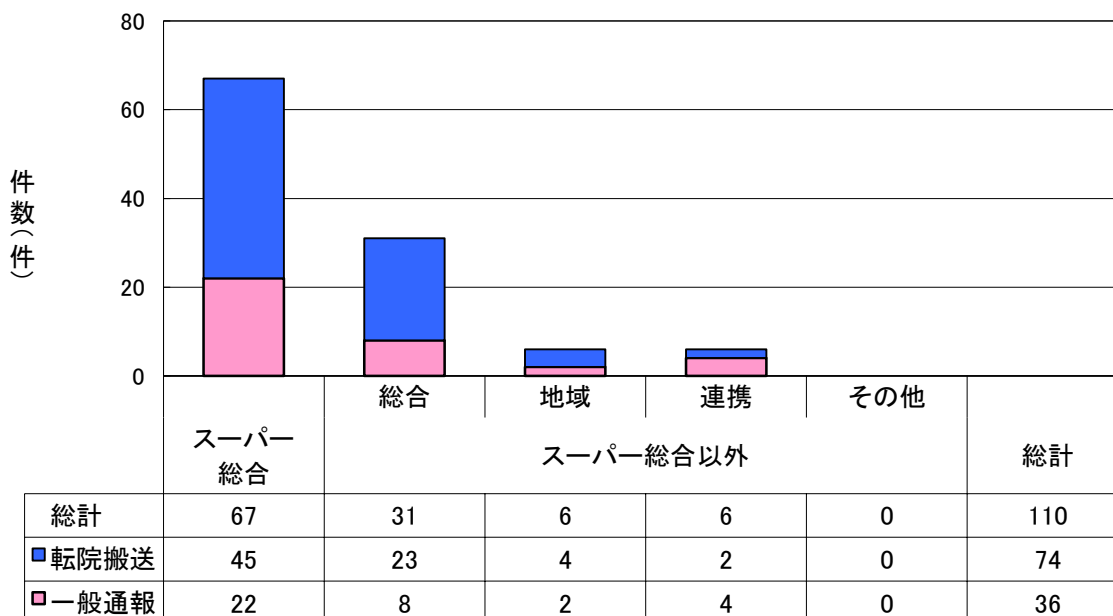
- 一般通報が36件(33%)、転院搬送が74件(67%)となっている。
- 一般通報、転院搬送とも約8割が直近かつ当番病院又は直近病院に搬送されている。
- ※ 当番病院：第一当番のスーパー総合周産期センター



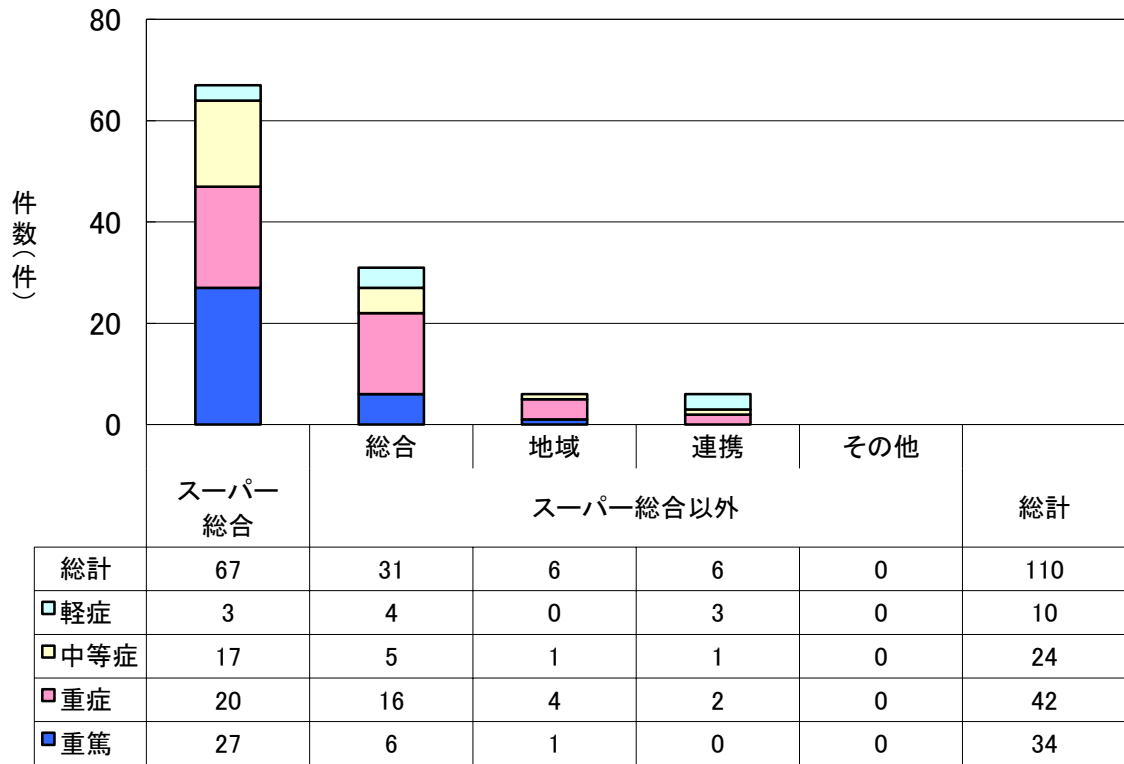
2 病院の種類

- スーパー総合周産期センター4病院には、転院搬送では45件、一般通報では22件、計67件(61%)が搬送された。
- スーパー総合周産期センターを含む総合周産期母子医療センターには、98件(89%)が搬送された。

(搬送の種類別)

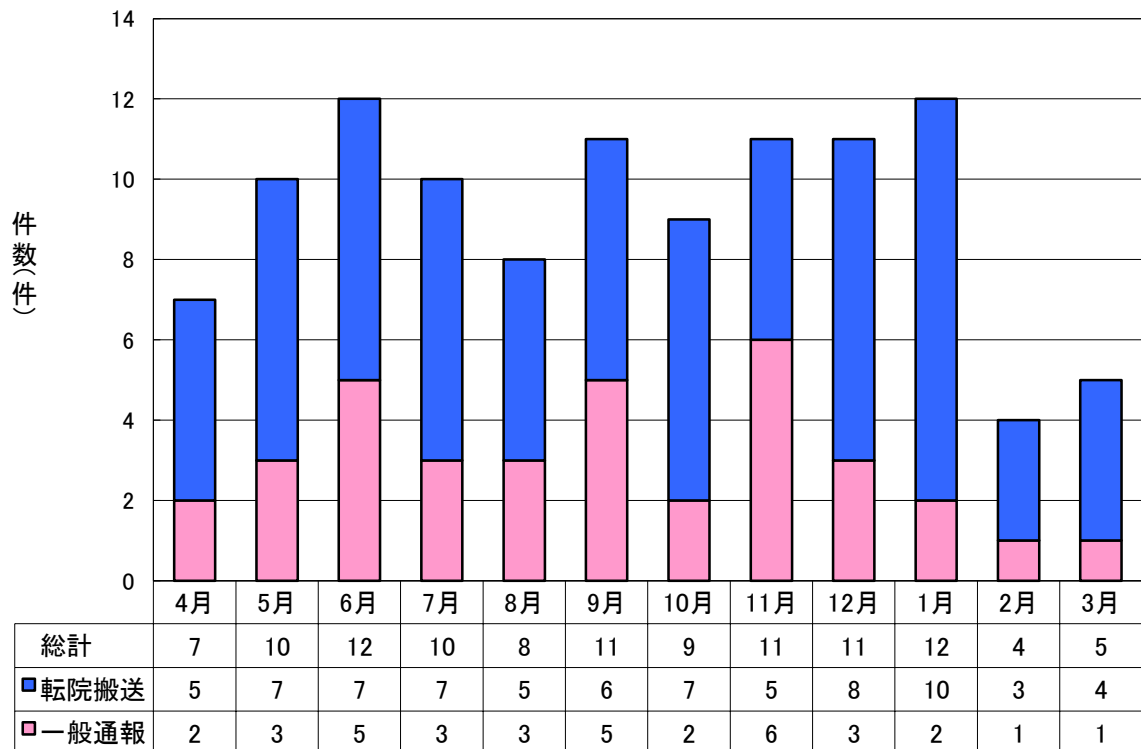


(重症度別)



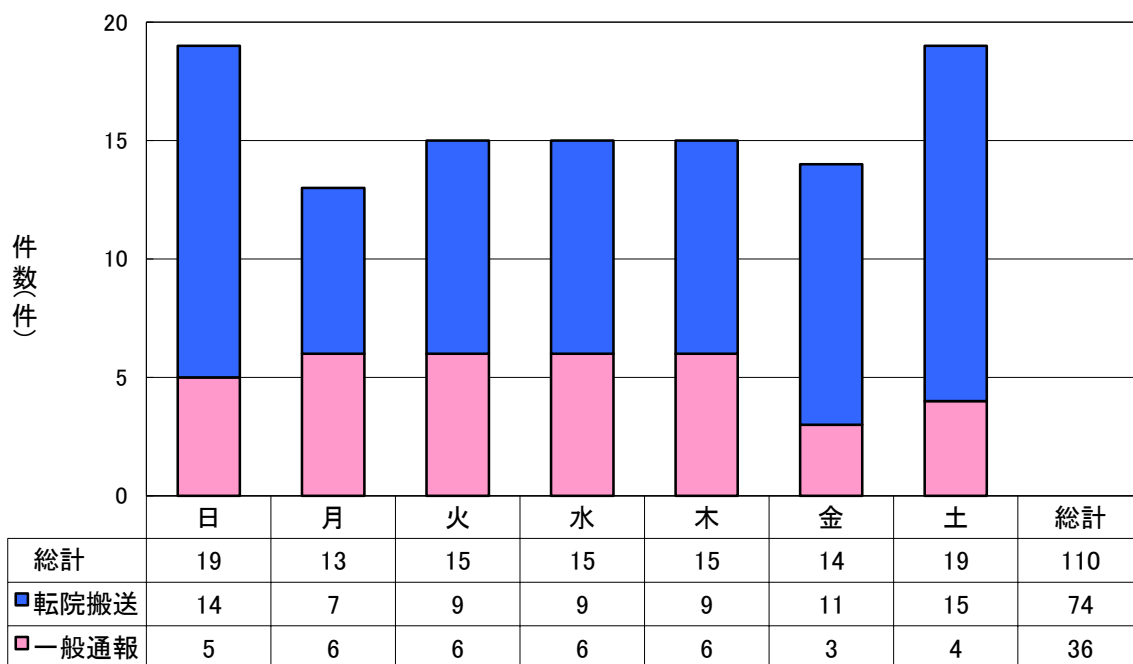
3 月別（搬送の種類）

- 発生件数が10件以上の月が多く、6月及び11月の12件は過去最多であった。
- 11月を除きどの月も転院搬送のほうが多かった。



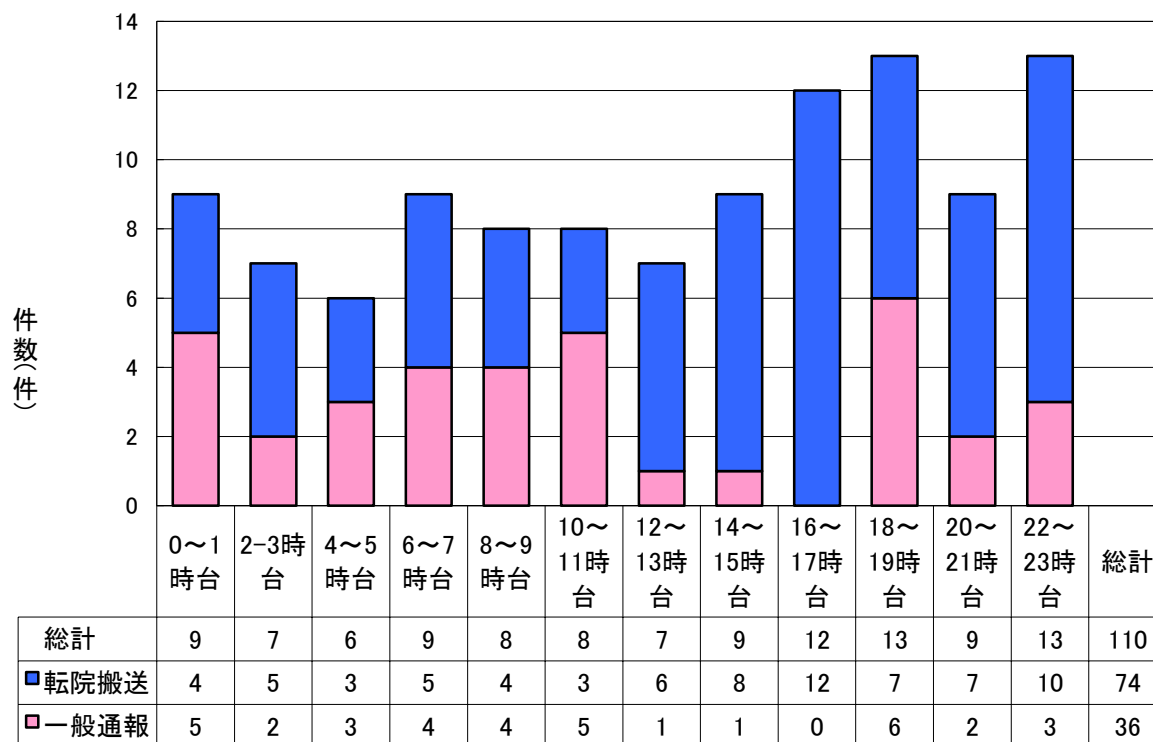
4 曜日別（搬送の種類）

○ 転院搬送は土曜日及び日曜日が多かった。



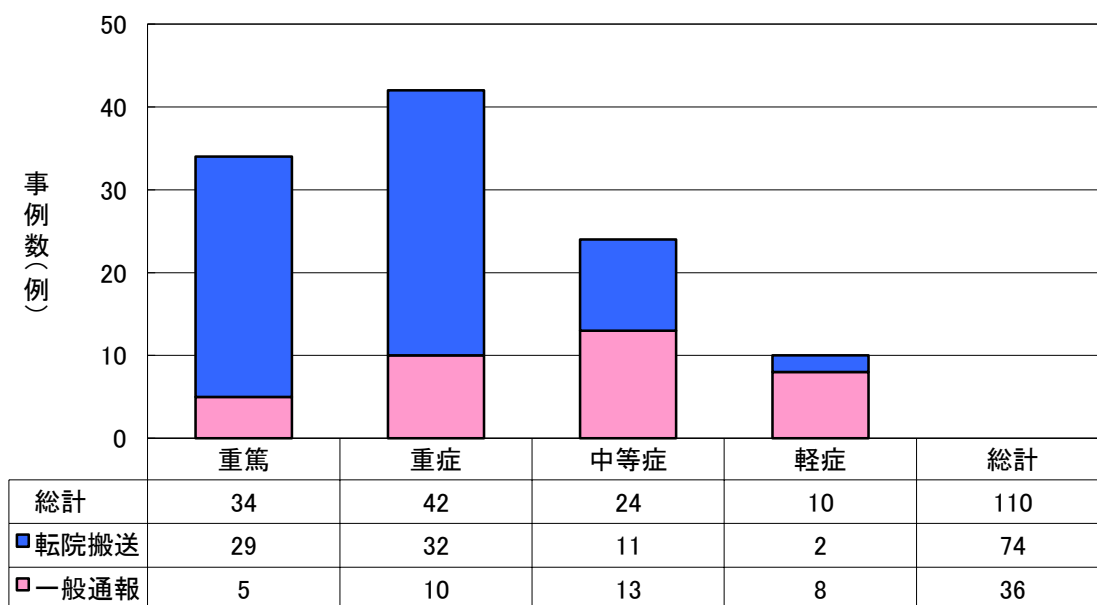
5 時間別

○ 覚知の時間でみると、転院搬送は16～17時台が多い。



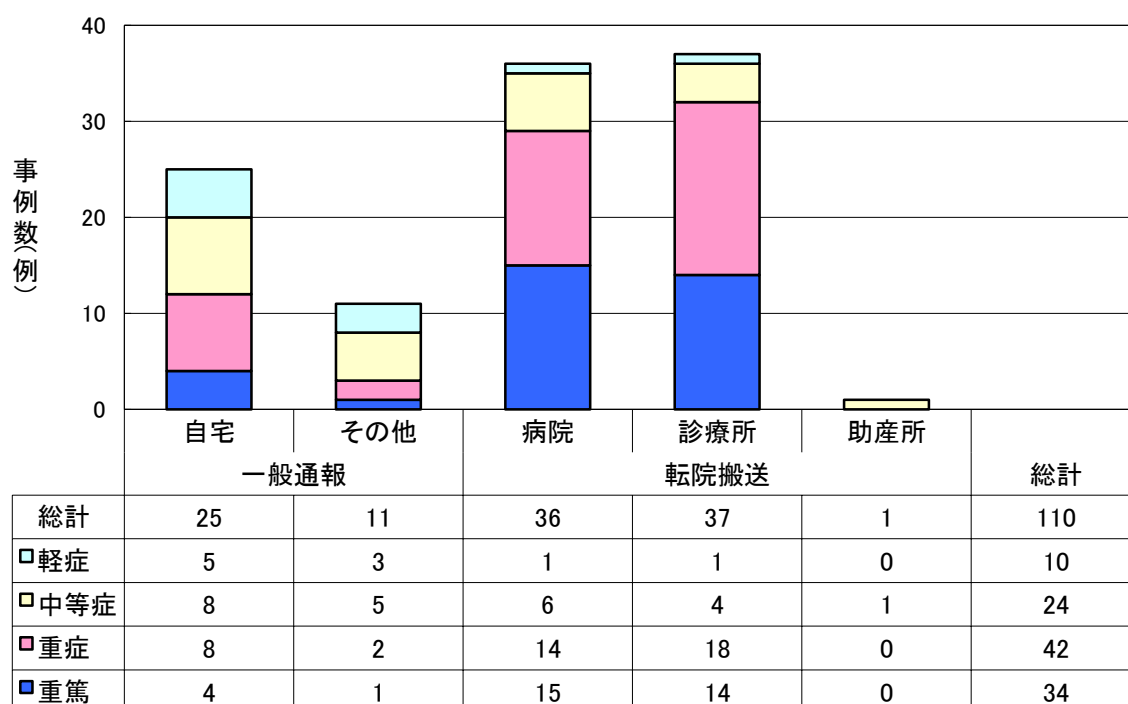
6 母の重症度（病院報告）

- 病院で確定診断が出てからの重症度では、重篤が34例(31%)、重症が42例(38%)であり、110例中76例(69%)がスーパー母体救命に相当すると考えられる。
- 重症以上では転院搬送の割合が多く、中等症以下では一般通報の割合が多かった。



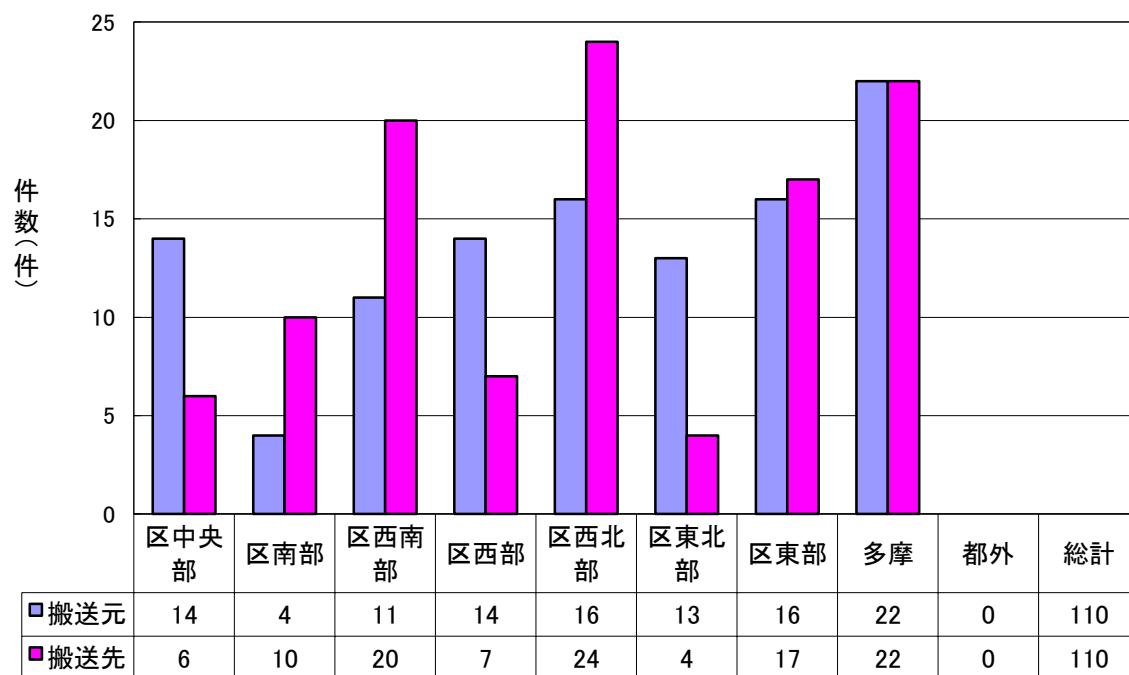
7 搬送元医療機関等

- 一般通報はほとんどが自宅からの搬送で、25件(69%)であった。
- 転院搬送は、病院及び診療所からの搬送がほぼ同数であった。



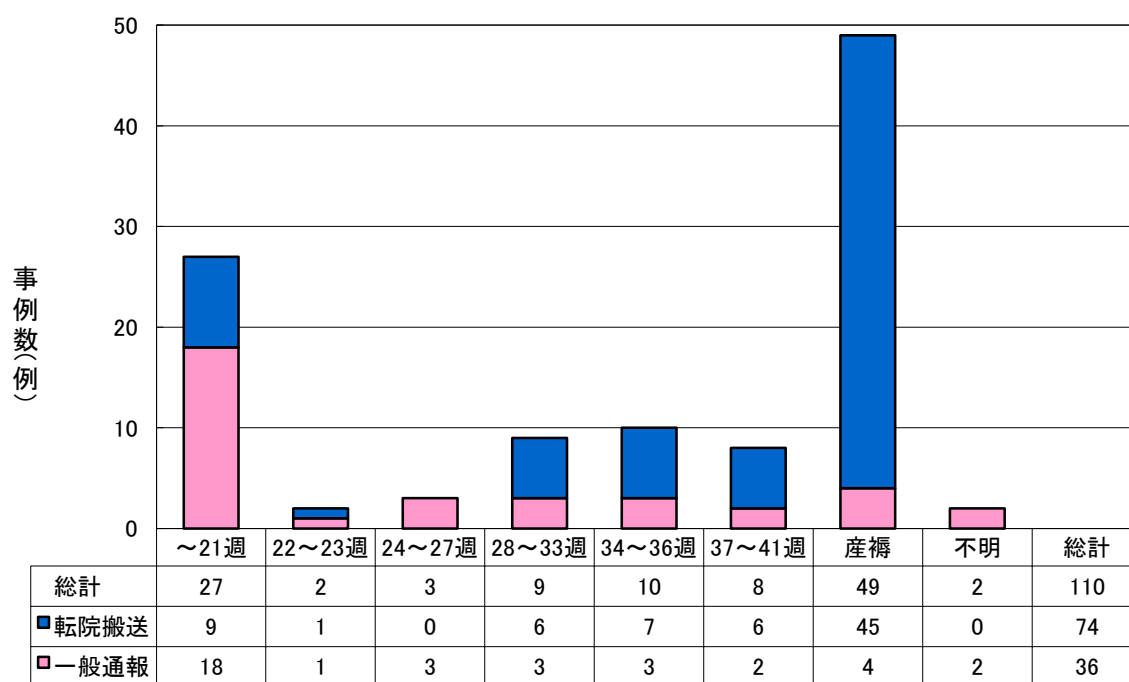
8 ブロック別搬送元及び搬送先

- 搬送元ブロックは、多摩、区西北部、区東部、区中央部が多い。
- 受入となる搬送先ブロックでは、区西北部、多摩、区西南部が多い。



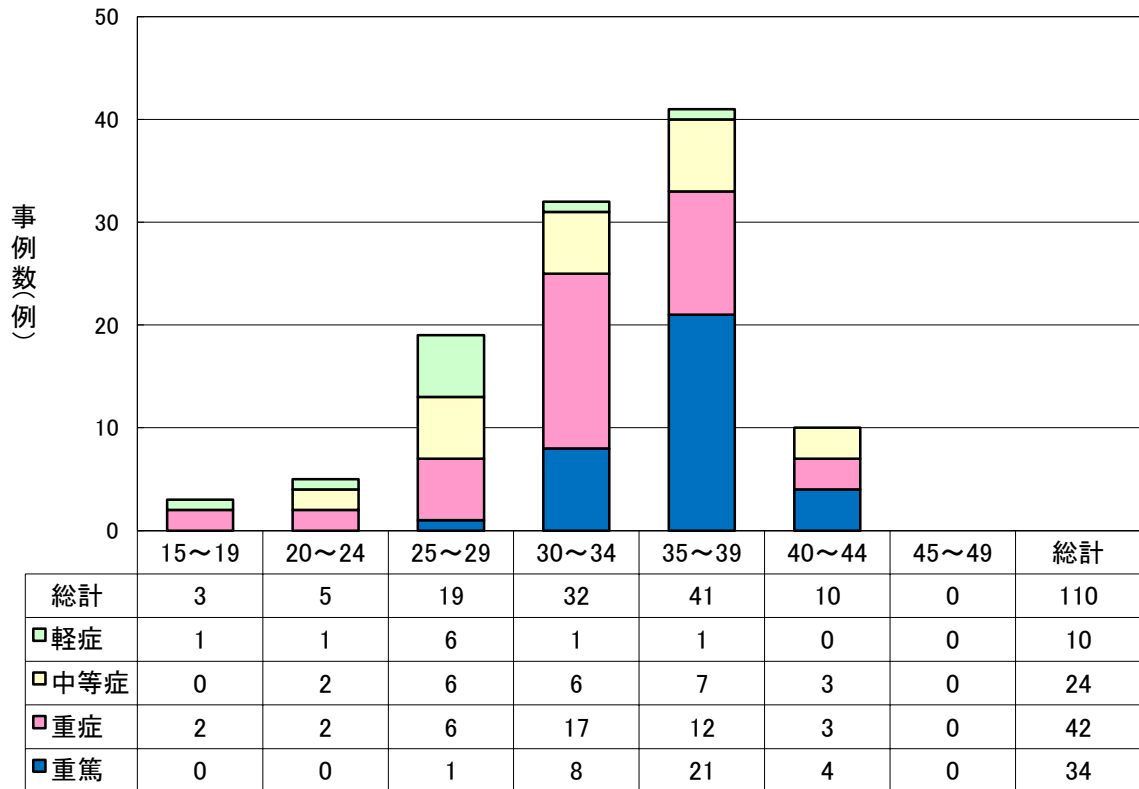
9 週数

- 産褥が49例(45%)で最も多かった。
- 21週以下は異所性妊娠や流産等であった。

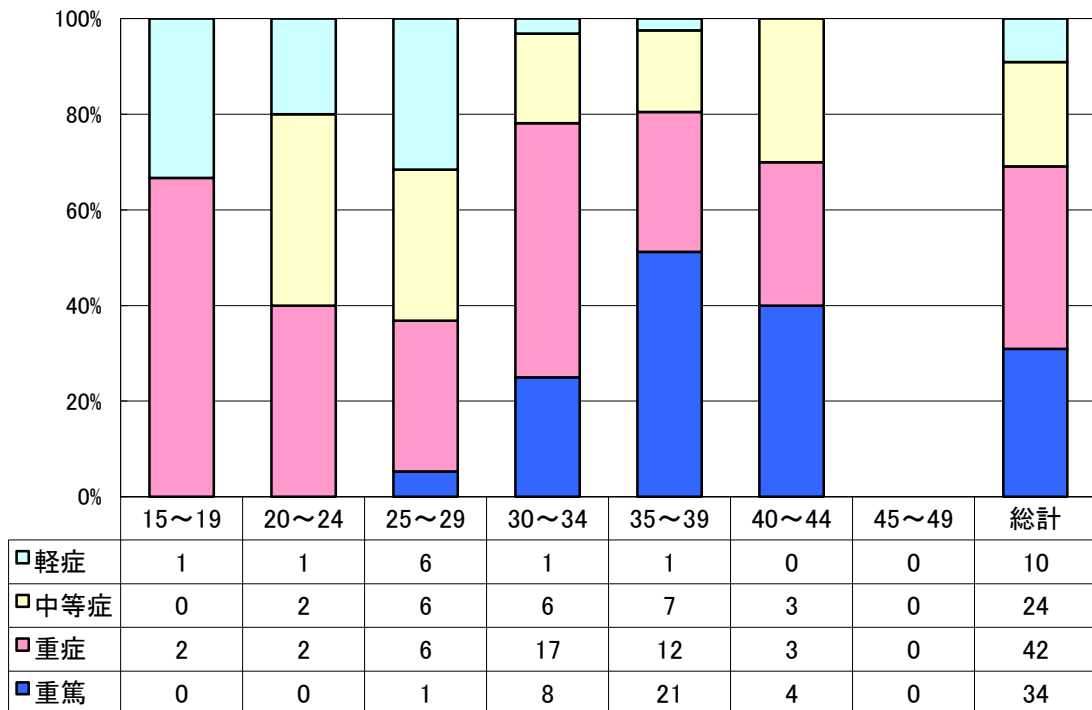


10 母の年齢（母の重症度別）

- 年齢が高いほうが、重篤の事例が多い。
- 年齢別で見ると30代の発生件数が最も多い。

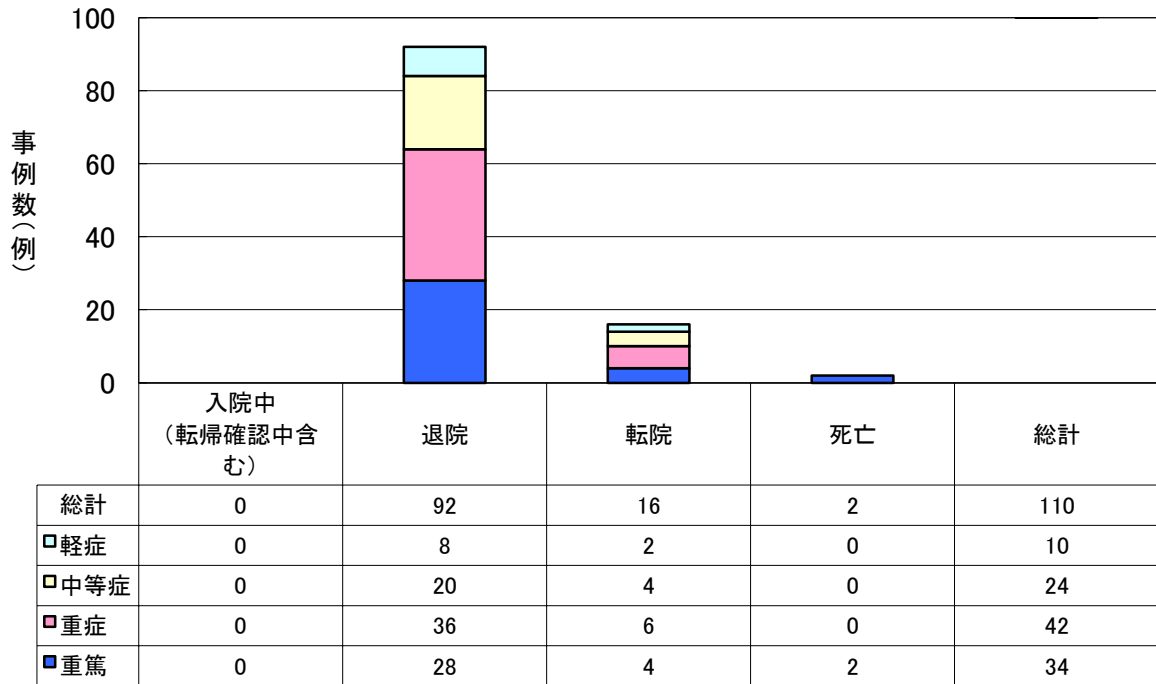


(割合)



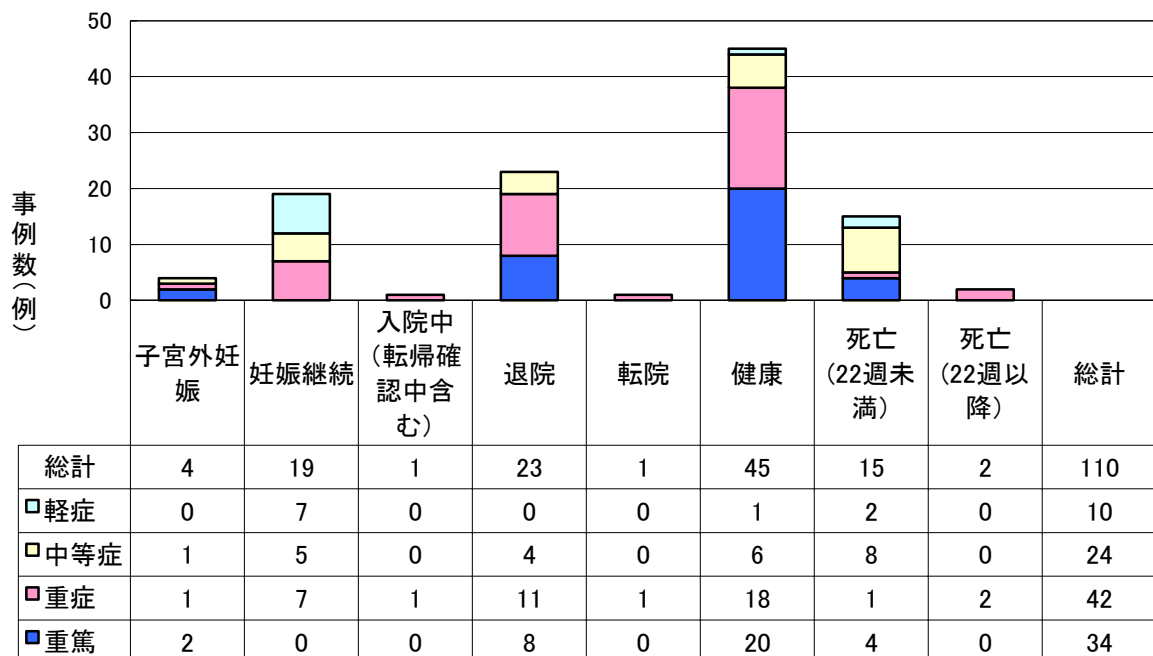
11 母の転帰（母の重症度別）

- 92例(84%)が退院し、16例(15%)が搬送元等に転院した。
- 2例(2%)が死亡で、重症度は全て重篤であった。



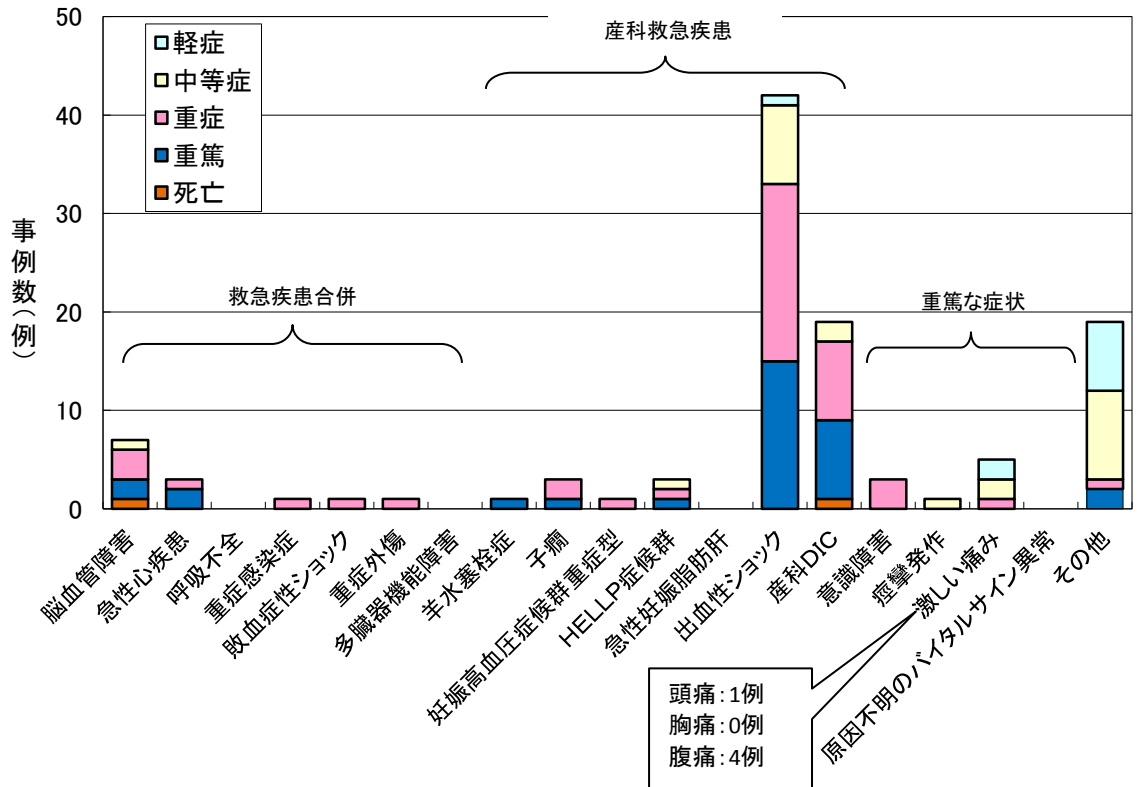
12 児の転帰（母の重症度別）

- 母が重篤又は重症であっても、児は退院・妊娠継続した事例が多い。
- 胎児死亡(22週以降)となった事例は2例(2%)だった。



13 スーパー母体救命対象症例別疾患（診断後）

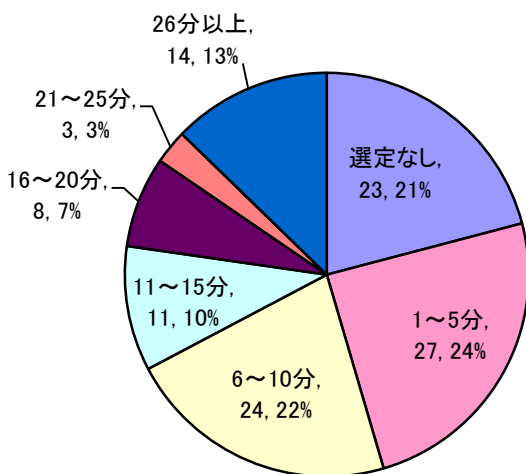
- 入院後診断された疾患名では、出血性ショック、産科DICが多い。
- 死亡事例の疾患名は、脳血管障害1例と産科DIC1例だった。



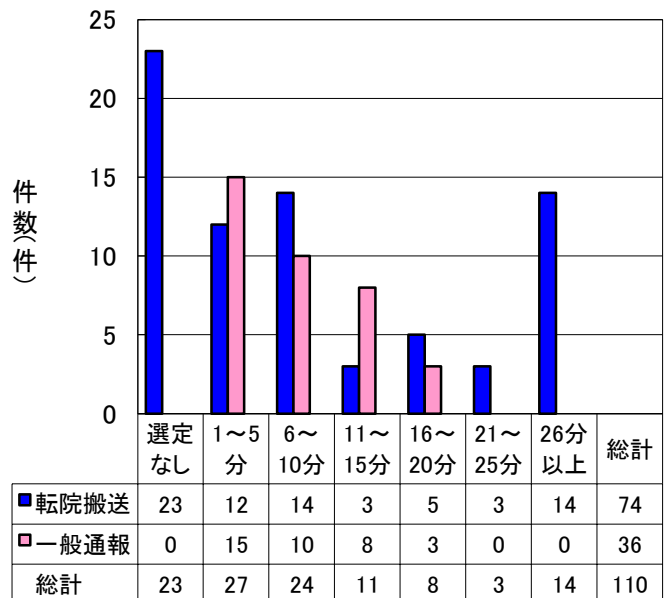
14 病院選定時間（平均13.2分、中央値8.0分、「選定なし」含まず）

- 病院選定時間の多くは15分以内であった。すでに搬送先が決定していた事例を除くと、選定に要した時間は、平均13分であった。
- ※ 選定なし：搬送元で既に搬送先を確保済みの場合

(割合)



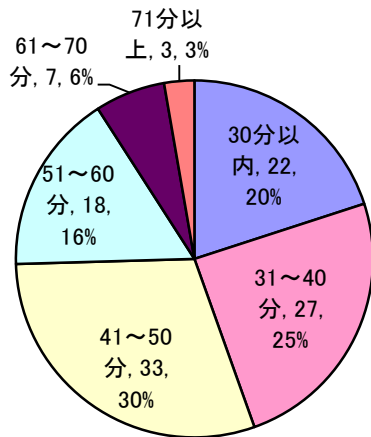
(分布)



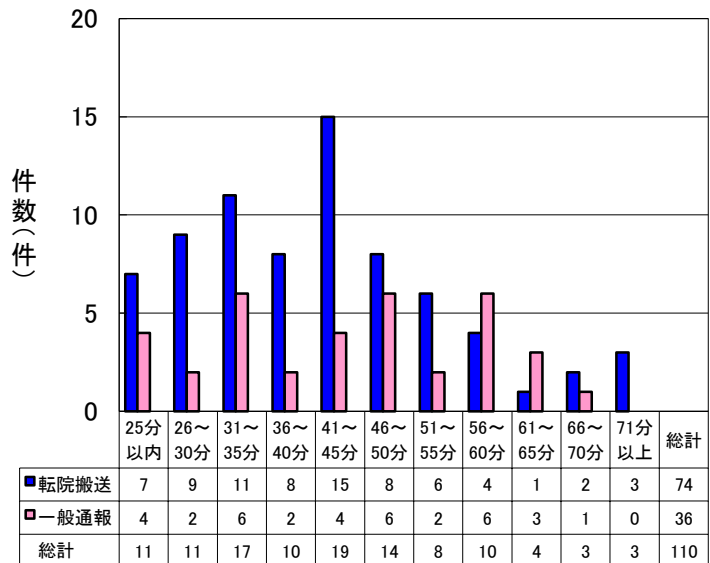
15 入院まで(覚知～病着)の時間 (平均42.0分、中央値41.0分)

- 覚知から病着までの時間の多くは50分以内であった。
- 60分を超えるものは10件(9%)であった。

(割合)



(分布)



16 搬送(覚知から病着まで)の平均時間と病院選定平均時間

- 転院搬送は、一般通報に比べ、現場に到着してから現場を出発するまでの時間が短い傾向にある。
- 転院搬送では、すでに搬送先病院が決定している場合は指令室での選定時間がないが、選定をしたものについては病院決定まで平均13分程度となっている。

